

# 決算のあらまし

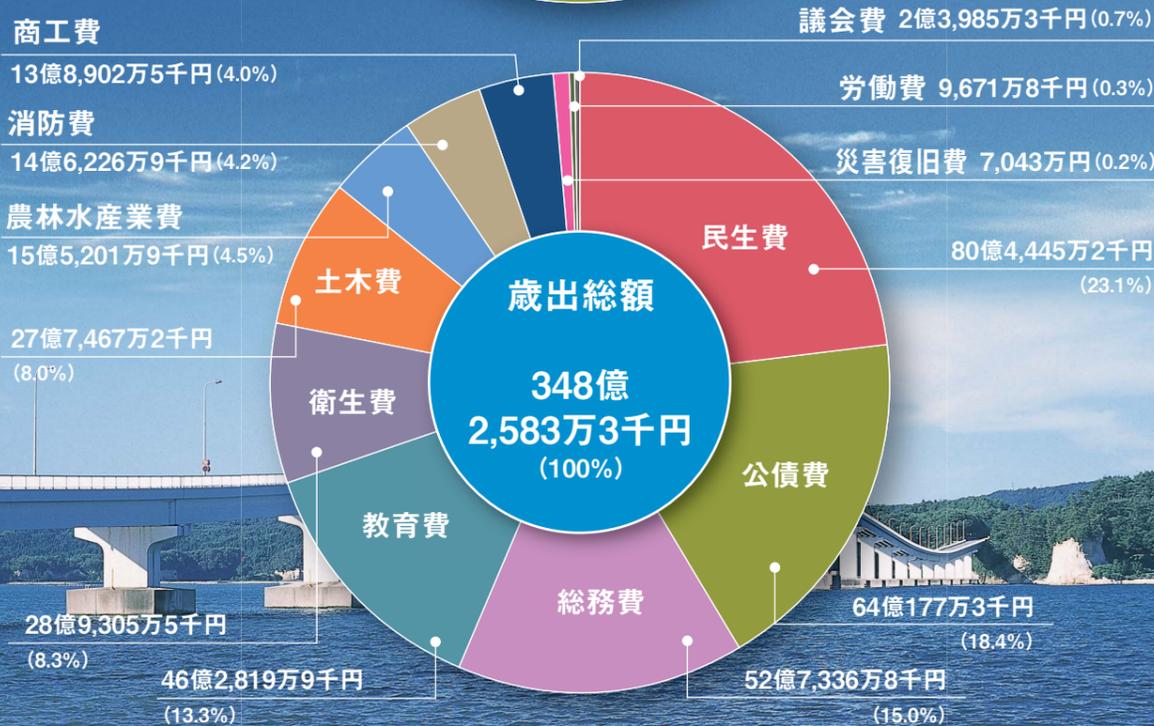
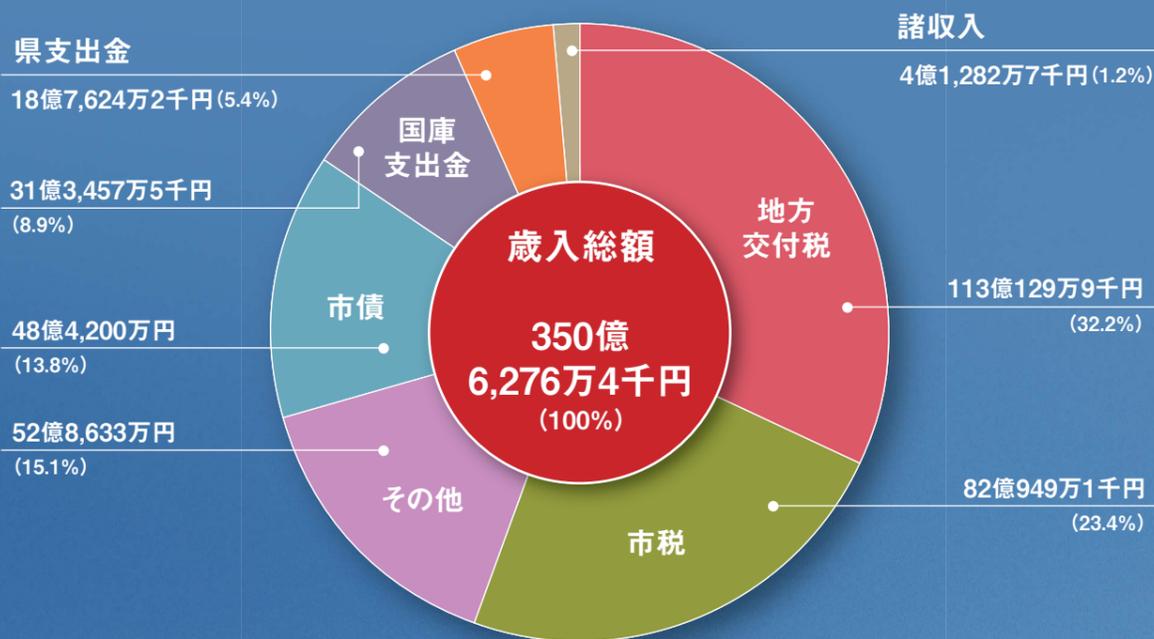
平成24年度は、重点分野を「『元気な七尾』実現プラン2012」と位置づけ、総合計画の実現に向けて積極的に取り組みました。

平成24年度決算では、普通会計に入ったお金（歳入）は、350億6,276万4千円。そこから使ったお金（歳出）348億2,583万3千円を引くと「2億3,693万1千円の黒字」でした。財政運営健全化に向けては、借金（公債）は決められた期限前に返済する取り組み（繰上償還）を行い、将来負担の軽減を図りました。また、国の緊急経済対策（平成24年度補正予算（第1号））に基づき、七尾市に関連する事業は早期に実施し、地域の振興や雇用創出効果が発揮できるよう、約9億円の補正予算を編成しました。

今後も限られた財源をいかに効率よく、効果的に使うかを十分に考慮し、住みよい七尾市を目指したまちづくりに取り組みます。皆さんのご理解とご協力をお願いします。

## 平成24年度 普通会計

※普通会計…地方財政状況調査（決算統計）の作成要領から、一般会計にケーブルテレビ事業特別会計などを含めた会計。



# 長年の功績に光



長年にわたりそれぞれの分野で尽力された方々が、荣誉に輝かれました。

秋の叙勲

**瑞宝双光章**

本府中町  
出久地 十四男 [74歳]

現保護司



昭和59年から保護司として、罪を犯した人を見守り、再犯防止のため、自立した生活を送れるようさまざまな支援活動に尽力。

「信頼関係を築くことが一番大事」と話し、出所前から刑務所へ出向き、罪を犯した人の声に耳を傾け、心に寄り添ってきた。

「就職はなかなか困難で、決まった時は自分のことのように喜びます。更生した人の前向きな姿勢が見えると、本当にうれしい」と目を細める。

「これまで29年間続けてこられたのも妻のおかげ」と内助の功に感謝。今後も体力が続く限り、頑張りたい」と意気込む。

秋の叙勲

**瑞宝单光章**

中島町上町  
古川 繁 [72歳]

元七尾鹿島広域圏事務組合 第3消防団副団長



消防団員になったきっかけを聞くと、「昔、近所で家事があつて、火の怖さを目の当たりにしたからかな」と話す古川さん。

昭和37年から約42年間、消防団活動に尽力。副団長を務めるなど後輩の指導にもあたった。「消防団の訓練大会は、それぞれ自宅で練習するくらい力が入っており、県大会に出場するほどの好成绩だった」と振り返る。

平成16年に消防団を退職した後、今年の2月まで、支援団員として消防団をサポート。現在も同年代の地域の人たちと、消火栓マップを作り、いざという時に備えるなど、地域の安心安全を見守り続ける。

危険業務従事者叙勲

**瑞宝单光章**

天神川原町  
堂林 譽二郎 [70歳]

元七尾鹿島広域圏事務組合 消防司令



「小さい頃、法被を着て出かけていく父の背中をいつも見ていた。祖父の代から消防団員だったことが、自分の励みだったと話す堂林さん。

消防士として昭和46年から32年間勤務。災害現場においてミスは許されない」という信念で、非番の日も、体力トレーニングや消火栓水利の調査、地域の道路状況の確認に回るなど、日々の努力も忘れなかった。

最後に堂林さんは、「近年は地域で防災訓練を行うところが増えてきている。ぜひ参加して、防災に関心をもってほしい」と防災への意識向上を呼びかけた。